

## 目次

<b>第一章 序論</b>	
第一節 研究動機	1
第二節 研究目的	2
第三節 先行研究	3
第四節 研究方法	9
<b>第二章 『古今集』の恋歌について</b>	12
第一節 恋歌の本質	12
第二節 『古今集』恋歌の構成	15
第三節 『古今集』恋歌における時間性の表現	20
第四節 まとめ	25
<b>第三章 朝と夜</b>	27
第一節 不特定の朝と夜	28
第二節 特定の朝と夜	39
第三節 まとめ	57
<b>第四章 夢とうつつ</b>	59
第一節 夢で逢いたい	62
第二節 夢でさえ逢えない	68
第三節 夢で逢えた	73
第四節 うつつで逢えた	78
第五節 夢で逢えなくなった	83
第六節 まとめ	89
<b>第五章 昔と今</b>	90
第一節 出逢った前の昔と、逢ってからの今	91
第二節 愛し合った昔と、別れてからの今	100
第三節 まとめ	110
<b>第六章 結論</b>	112
第一節 朝と夜	112
第二節 夢とうつつ	115
第三節 昔と今	118
第四節 『万葉集』と『古今集』における表現上の相違	120
第五節 まとめ	124
<b>付表</b>	126
<b>参考文献</b>	127